



THE NEXT GENERATION
—パトレイバー—
DOG FIGHT R



コカコーラゼロ

鈴鹿8時間耐久ロードレース2014
参戦活動報告書

Road Race Activity Plan

PATLABOR TEAMJP DFR YAMAHA



2014年 株式会社ドッグファイトレーシング

レース

Race

参戦2年目を迎える鈴鹿8時間耐久。初参戦の昨年はノットラブルで201周を走り切り、17位を獲得。今年は更に上位を目指す為にピット作業時間の短縮や、アベージ向上により、目標周回数を210周に設定し、シングルフィニッシュを目指して臨みました。また昨年はあと一步で届かなかった藤田の予選トップ10入りも目標に設定して準備を進めて参りました。

そして今年は映画「THE NEXTGENERATION PATLABOR」とのコラボレートしての参戦となり、直前となった参戦発表から大きな反響があり、業界以外の各メディアからも参戦が報告されるなど、高い注目を集める中での参戦となりました。そのレース結果をご報告致します。

トイベイ名：コカコーラゼロ・鈴鹿8時間耐久レース

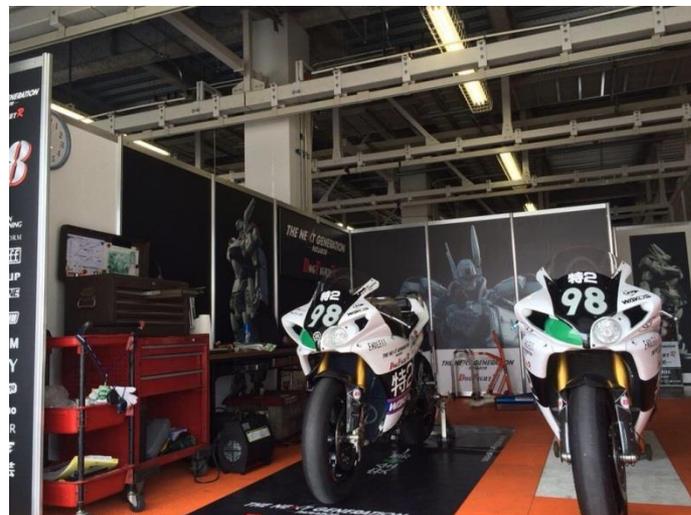
開催日：2014年7月24～27日

開催地：鈴鹿サーキット(三重県)

観客動員：11万1000人(4日間合計)

スーレ結果

No98 PATLABOR TEAMJP DOGFIGHTR YAMAHA
予選19位 決勝17位 (165周)



事前テスト・公式練習

Race

事前テスト

春の開幕戦の鈴鹿から車体仕様を変更、リヤサスペンションのリンクを変更し、タイヤのグリップを引き出しながらライフを向上させるセットアップに専念していきました。

今年的事前テストは半分以上が雨となり、残念ながらドライでのセットアップは詰め切ることが出来ませんでした。それでも藤田は常にトップ10圏内のタイムを記録しており、ペアを組む鈴鹿初参戦のダン選手が16秒台を記録、復活した及川選手も14秒台に突入とライダーは順調にペースを上げて来てくれました。またウエットコンディションでは藤田はトップ3に入る速さを見せ、及川選手も上位陣と遜色ないペースで走る事が出来ており、雨のレースならトップ6も狙えるかもしれない仕上がりを見せておりました。

公式練習

レースウィークに入り灼熱の中で練習走行が始まりました。路面温度は60度に近づき、事前テストとは路面状況が大きく変わってしまいました。天気予報では猛暑日が続く予報となっており、この環境でのセットアップが非常に重要な要素となってきました。タイヤのグリップ感が得られない状況の中で藤田と及川が中心となってセットアップを詰めて行き、徐々に方向性が固まってゆきました。初日を無事終え、公式予選前の2時間のフリー走行では各ライダーが30分ずつのロングランテストを行い公式予選に臨む予定でおりましたが、最後に走ったダン選手が130Rで転倒。マシンは大破し本人も全身の打撲と右手首や右指にダメージを負ってしまいました。

メインカーは車体、エンジンとダメージが大きく、公式予選までに修復することが困難なためマシンを急遽Tカーに切り替えてセットアップを行います。メインカーと全くの同仕様とは言えないマシンで3人のライダーは予選に臨む事になりました。

公式練習・予選

Race

公式予選

今年の鈴鹿8時間耐久はタイヤ本数制限が導入されており、決勝は15本、予選は7本と決められております。そのため藤田に5本(2セット+リヤ1)、及川に2本(1セット)を割り当て、ダン選手には確認走行のみで予選通過の想定タイム2分28秒を切ることを目標に予選に臨みました。

藤田は2セットのタイヤでタイムアタックを繰り返しますが思うようにタイムが伸びません。懸命にマシンを操り2分10秒7を記録しますがこれが精一杯。目標のトップ10入りには遠く及ばない悔しい予選となってしまいました。続く及川も自己ベストに届かず、2分16秒。そして最後にダン選手がコースイン。3周目に2分20秒を記録して設定タイムをクリアしたところで走行を終了。公式予選は総合19番手と不本意な結果で終えることになってしまいました。

チームは予選終了と共にTカーをメインカーと同仕様に変更する作業にかかり、破損したエンジンを修復して決勝に向け準備を進めます。

フリー走行

無事修復の終わったマシンで土曜日のフリー走行を走りますが、電気系のトラブルが発生したともに走行する事が出来ません。結局フリー走行の時間内でトラブルの解決が出来ず、走行後になって原因を究明。エンジンから出力されるスピードセンサーのハーネスに不具合が生じていました。修復も終わり決勝に向け準備を進める中で、天気予報が日曜日の雨予報の情報が入ってきました。午後に一時的に雨が降る可能性が出てきたのです。雨が得意な二人には喜ばしいニュースです。また雨で燃費が良くなり走行時間が伸びれば、他メーカーと同じ7回ピット作戦に変更することも可能になってきます。

決勝その1

Race

決勝前フリー走行

いよいよ決勝の朝。朝一番のフリー走行でフルタンクの状態を確認走行に入る藤田。マシンフィーリングは良好で及川選手にバトンタッチ。順調にマシンの感触を確認して及川選手からダン選手に交代。昨日一日を休養にあてたダン選手は、ライディングは問題ないとのコメントから最終的な走行プランを組むためにダン選手を走らせましたが、なんと3周目のヘアピンコーナーで転倒。ダン選手はろっ骨などをさらに痛めてしまい決勝を断念することになり、藤田と及川の2名で走り切る作戦に変更しました。

決勝

決勝スタートの11時30分。天気予報は丁度そのタイミングで雨が降り出す予想。サイテイングラップが始まるころに雨粒が落ち始めマシンをグリッドに並べる頃には本格的な雨に変わり、各チームがグリッド上でタイヤ交換を始めました。雨脚はさらに激しくなり、スタートデレイが発表され各マシンはピットの戻されスタート時刻を1時間遅れの12時30分に変更。ゴールは19時30分に変更がないので、7時間耐久として再開されました。ウェットコンディションでのレースとなり雨が得意な藤田に気合が入ります。ウォーミングラップ2周をトップで帰ってきた藤田は真っ先にグリッドにマシンを並べ、ルマン式スタートの時を待ちます。グランドスタンドと一体となったカウントダウンとともに藤田が走り出しレースがスタート。絶妙の出足で加速する藤田。なんとオープニングラップで10台を抜き9番手に浮上。2周目には8番手に上がり先頭集団を追います。トップの秋吉選手は一人次元の違う走りでも独走してゆきますが、2番手以下のタイムは藤田が十分に追いつくタイム。その差を徐々に詰めて行き最高の展開になってきた5周目に藤田が緊急ピットイン。なんと燃料タンクの給油口のカバーが外れるトラブル。緊急修復して再びコースに復帰する藤田ですが順位は最後尾の62位まで落ちてしまいます。

決勝その2

Race

決勝

ここで藤田は落ち込むどころかライダー魂に火が付きます。上位と変わらないペースで次々と前車をパスして行きます。雨が上がり路面は徐々に乾いてゆきます。ぎりぎりまでレインタイヤで走り切った藤田はポジションを24位まで回復して及川選手に交代。ドライタイヤに変更してバトンを受けた及川は15~16秒で安定したタイムを刻み周回を重ねます。そしてその頃、次の雨雲が鈴鹿に近づいていることを天気予報が伝えてきました。及川の燃費で丁度ピットインのところに降り出す予報の為、チームは周回数を1周伸ばして走行を続けさせます。計算通りピットイン2周前になり雨が降り始めます。ペースを落としながらも我慢の走行を続ける及川。路面が完全にウエットにならない状態でレインタイヤを投入すると、あっという間にタイヤが消耗してしまうので、それまでは我慢の走行です。そして予定のピットインのタイミングで雨脚が一気に強まりコース上はフルウエットに。絶妙のタイミングでピットに戻ってきた及川からレインタイヤに交換して再び藤田がコースイン。コースイン直前にセーフティーカー(SC)が入りますが、SC終了と同時に26位でバトンを受けた藤田の快進撃が始まります。明らかに周囲を圧倒するスピードの藤田は、順位を一気に上げてゆきます。そしてピットインまでに14番手まで順位を回復し、トップ10も伺える可能性が見えてきました。その後も及川、藤田と二人でバトンを繋ぎ12番手争いの集団を追いかけます。10秒~30秒くらいの差で同一周回のマシンがいるので最後は藤田の連続走行で逆転を狙いますが、ここでまたSCが入り藤田の直前にSCが入ってしまう不運に見舞われます。これにより前車との差が90秒ほどに開いてしまい逆転はかなり厳しい状態になってしまいました。SC解除後に諦めずに前を追う藤田。確実にその差を詰めてゆきますがS字コーナーにオイルが出て再びSCが入ってしまいます。またしても藤田の直前にSCが入り、詰めていた前車との差が再び開いてしまいました。日が落ち夕闇が増す中でSCが解除になりレースも大詰め。チェッカーをを目指す藤田は165周を走り切り17位完走と最下位から45台抜きの激走を見せてくれました。

総括

Race

今年の鈴鹿8時間耐久参戦に当たり、ご協力頂きました皆様にまずは深く感謝申し上げます。

映画「THE NEXT GENERATION・パトレイバー」というビッグネームとのコラボが決まり、これまでにない多くの注目を頂きその反響の大きさに驚きの連続でした。レースウイークに入ってからにはアクシデントが続き、皆様にも大変ハラハラさせる思いだったと思いますが、決勝を無事走り切ることができホッとしております。

決勝スタート直後の天国から緊急ピットインで最下位まで転落の地獄を見て今回のアクシデント続きから気持ちが萎えそうになりましたが、新世代の藤田選手が素晴らしいパフォーマンスを見せて順位を回復。その走りを旧世代の及川選手がしっかりとフォローし、ダン選手もチームの為の勇気ある決断により、62位から45台抜きの17位完走という快挙を成し遂げることができました。

(レースチームの特2もやるときゃやります…)

レースが終わって涙腺が緩んでしまったのは本当に何年ぶりでしょう。

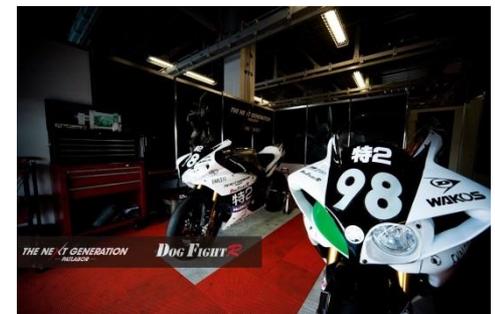
それほど今回のイベントは例年になく大変でその分大きな喜びと様々な事を学ぶ事ができたレースでした。

8月のインターバルを置いて、9月から後半戦がスタートします。そしてあっという間に来年の鈴鹿がやってきます。皆様と再びあの感動を分かち合えますよう、そしてファンの皆様と感動を共に出来事を楽しみにしております。

ドッグファイトレーシング
代表 室井秀明

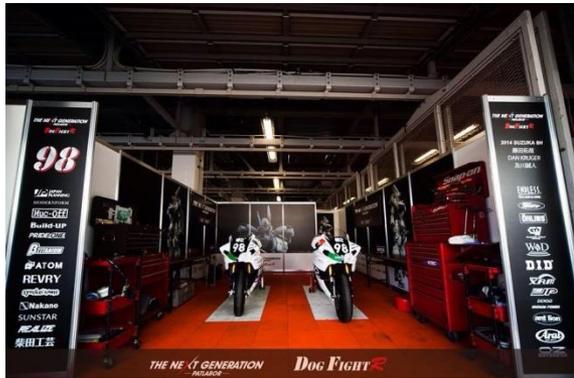
ギャラリー

Race



ギャラリー

Race



ギャラリー

Race



ギャラリー



THE NEXT GENERATION
—パトレイバー—

PATLABOR TEAMJP DFR YAMAHA

株式会社ドッグファイトレーシング
代表 室井 秀明

〒271-0061

千葉県松戸市栄町西4-1195-4

TEL047-703-3030 / FAX047-308-1122